

武魂継承祭

今から八十六年前の昭和七年五月十五日、当時塗炭に苦しむ農民・労働者を憂い、政権党利に盲ひたる政党と之に結託して、民衆の膏血を搾る財閥に対し、檄文「日本国民に檄す」に見る主張のもと、五一五烈士は、昭和維新を念願し、五一五事件を決行しました。

我々は、五一五事件の意義を継承し、歴史を風化させない為、事件で犠牲になられた犬養毅命・田中五郎命・事件に携わられた青年将校・陸士候補生・民間の方々全ての御霊を案じ、此処靖國神社において武の心の継承を誓いたいと思う。

日頃の鍛錬の成果を奉納すべく、区々たる一身を顧みず世直しに立ちあがった五一五烈士、祖国の永劫を祈りつつ戦陣に斃れられた二百四十六万六千余柱英霊の御霊に感謝のまごころを籠めて

大地社

代表

水谷

浩樹

日本国民に檄す

日本国民よ！

刻下の祖国日本を直視せよ、政治、外交、経済、教育、思想、軍事！何処に皇国日本の姿ありや。政權、党利に盲ひたる政党と之に結托して、民衆の膏血を搾る財閥と、更に之を擁護して圧政日に長ずる官憲と、軟弱外交と墜落せる教育、腐敗せる軍部と悪化せる思想と、塗炭に苦しむ農民、労働者階級と、而して群衆する口舌の徒と！

日本は今や斯くの如き、錯綜せる墜落の淵に死なんとしてゐる。革新の時機！今にして立たずんば、日本は滅亡せんのみ。

国民諸君よ！武器を執って起て！今や邦家救済の道は唯一つ「直接行動」以外の何者もない。

国民よ！天皇の御名に於て君側の奸を屠れ！

国民の敵たる既成政党と財閥を殺せ！

横暴極まる官憲を膺懲せよ！

奸賊、特権階級を抹殺せよ！

農民よ、労働者よ、全国民よ！祖国日本を守れ！

而して、

陛下聖明の下、建国の精神に帰り、国民自治の大精神に徹して人材を登用し、朗らかな維新日本を建設せよ。民衆よ！

この建設を念願しつ、先づ破壊だ！

凡ての現存する醜悪なる制度をぶち壊せ！

偉大なる建設の前には、徹底的な破壊を要す。

吾等は日本の現状を哭して、赤手、世に魁けて諸君と共に、昭和維新の炬火を点せんとするもの。

素より現存する左傾、右傾何れの団体にも属せぬ、日本の興亡は吾等「国民前衛隊」決行の成否に非ずして、吾等の精神を持して続起する国民諸君の実行力如何に懸る。起て！起つて、真の日本を建設せよ。

昭和七年五月十五日

陸海軍青年將校
農民同士

式次第

一、国歌 独唱 河野みどり

一、四方被いの儀 大地社

一、一位流合氣古武道 美剣体道会

一、不二流 体術 久保村道場

一、大日本戸山流 東京文武館

一、芸道殺陣波濤流 高瀬道場

青年日本の歌

作詩・作曲 三上卓

一、 汨羅の淵に波騒ぎ
巫山の雲は乱れ飛ぶ
混濁の世に我立てば
義憤に燃えて血潮湧く

二、 権門上に傲れども
国を憂ふる誠なし
財閥富を誇れども
社稷を念ふ心なし

三、 嗚呼人栄え国亡ぶ
盲ひたる民世に踊る
治乱興亡夢に似て
世は一局の碁なりけり

四、 昭和維新の春の空
正義に結ぶ益良夫が
胸裡百万兵足りて
散るや万朶の桜花

五、 古びし死骸乗り越へて
雲漂揺の身は一つ
国を憂ひて起つ時に
大夫の歌なからめや

六、 天の怒りか地の声か
そも只ならぬ響きあり
民永劫の眠りより
醒めよ日本の朝ぼらけ

七、 見よ九天の雲は垂れ
四海の水は雄叫びて
革新の機到りぬと
吹くや日本の夕嵐

八、 あゝうらぶれし天地の
迷ひの道を人はゆく
栄華を誇る塵の世に
誰が高楼の眺めぞや

九、 功名何か夢の跡
消えざるものはた誠
人生意気に感じては
成否を誰か論ふ

十、 やめよ離騒の一悲曲
悲歌慷慨の日は去りぬ
吾等が剣今こそは
廓清の血に躍るかな

武 魂 継 承 祭 実 行 委 員 会

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北1-2-3-201

実行委員 大島 義人 TEL 090-1801-3681